

平成26年12月24日

東日本旅客鉄道株式会社
千葉支社長 石川 明彦 様

内房線における『特別快速』の増発及び減便となった『特急列車』
の復活について (要望)

時下ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃より、安房地域及び館山市における公共
交通の維持のため、多大なるご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、今般発表された、平成27年3月14日のダイヤ改正におきまし
て、内房線特急「さざなみ」については、運転本数の減、さらには運転
区間の見直しにより、平日における館山～君津間での運転が取り止めにな
ることとなり、館山～東京間に総武快速線直通の『特別快速』が新設
されるものの、沿線住民や観光客・ビジネス客にとりましては、内房線の
利便性が大きく低下することになりました。

館山市では、平成19年の館山自動車道全線開通以来、アクアライン
経由の高速バス利用者は増加し、特急「さざなみ」利用者は減少傾向に
あります。

しかしながら、鉄道は、高速バスに比べ、大量輸送、定時性の確保、
安全性や環境面などに優れた特徴を有し、通勤・通学をはじめ、地域住民
の日常生活に欠くことのできない交通手段として、また、まちづくりや
産業・観光の基盤として、重要な役割を果たしております。

今後、館山市といたしましても、鉄道の重要性を再認識し、利用者の
増加に向け、より一層官民協働で積極的に取り組んでまいりますので、
内房線の利便性確保に向け、朝の通勤・通学時間帯における館山からの
上り、夕方の帰宅時間帯における東京からの下りの『特別快速』の増発
及び減便となった『特急列車』の復活について、特段のご配慮を賜ります
よう強く要望いたします。

館山市長

金丸 謙



館山商工会議所会頭

杉井 繁 樹



一般社団法人 館山市観光協会代表理事会長

小金 晴 男

